

コロナ禍だからこそ口腔ケアを



相模原市子ども・若者未来局 子ども家庭課長

江成敏郎

私は最近、定期的なメンテナンスのため歯科医院に通っていますが、突然訪れたコロナ禍によって、歯科医院に限らず医療機関そのものに足を運ぶことを控える方が増えていると、様々な場面で耳にします。

私の在籍する部署に配属されている歯科衛生士に話を聞いたところ、本来、我々は鼻で呼吸をしているのですが、マスクを着けていると息苦しさのため、無意識に口呼吸になりやすいとのことでした。

口呼吸が続くと、口の中が乾燥するために唾液が減少します。唾液は食物の消化を助けるだけではなく、口腔内の細菌や汚れを洗い流すほか、唾液自体が免疫機能を持っているため、唾液が減少することで歯肉炎やむし歯が進行しやすくなるといった影響があるそうです。コロナ禍だからこそ、より一層の口腔ケアが必要であることを実感しました。

昨年度、最初に発出された緊急事態宣言の期間中は乳幼児の集団健康診査を休止しましたが、その後、乳幼児健康診査を再開した後は、再度の緊急事態宣言発出の際にも休止することなく、継続して実施してきました。日々成長している乳幼児の発育・発達、疾病の早期発見、保護者の育児不安解消などは、時期を逃すことなく、その都度確認し、支援を行うことが必要との判断によるものです。

しかしながら、集団の乳幼児健康診査において実施していたブラッシング指導などの歯科集団指導は休止したままとなっています。資料配布やパネル展示などの代替策により普及啓発に努めていますが、先述のようにコロナ禍だからこそ口腔ケアの大切さを伝え、相談の機会を増やすことで、育児不安の軽減に努めたいと考えています。

そのため本市では、母子を対象とした歯科保健対策の強化を目的に、新たに「こどもの歯科相談」を設け、歯科衛生士が電話や面接、オンライン面接でも相談に対応するための準備を進めているところです。

大人の皆さまも、コロナ禍だからこそ、定期的な歯科メンテナンスをお忘れなく！